

# 平成25年度 地域別会議の開催概要について

北海道環境生活部環境局環境推進課

## 1 地域別会議の設置目的

人口減少やこれに伴う水需要・料金収入の減少、技術職員の退職による技術継承の問題、水道施設の老朽化に伴う施設更新など、水道事業を取り巻く環境は、厳しさを増している。

水道事業体の持続的な運営には、従来の事業統合に加え、経営の一体化、管理の一体化、施設の共同化といった「新たな概念の広域化」（以下「広域化」という。）を中心とした多様な運営形態の導入を図るなど、経営・技術の両面にわたる運営基盤の強化に努めていく必要がある。

道では、北海道水道ビジョン（平成23年3月策定）や水道整備基本構想（25年3月改定）

の実現に向け、道、水道事業体、民間事業者等が連携・協力して広域化など多様な運営形態の導入のほか、諸課題の解決に向けた情報共有、意見交換、取組方策検討の場として「地域別会議」を設置し、25年度に道内6地域で計7回開催した。

### 地域別会議の開催（6地域）

#### (1) 水道事業体の広域化など多様な運営形態の推進

- ・ 広域化、第三者委託、官民連携等に関する情報共有、意見交換、取組方策検討の場

#### (2) 水道の諸課題に対する意見交換

- ・ 地域水道ビジョン、アセットマネジメント、耐震化計画の策定等

## 2 開催内容

### (1) 水道事業体における課題

- ① 人口減少、水需要・料金収入の減少、職員減少、技術継承について
  - ・ 人口減少、これに伴う水需要の減少や水道職員の減少が進み、退職者の補充や技術者の確保も難しく、技術の継承も課題となっている。（共通課題）
  - ・ 技術者確保のため職員を募集したが応募がなかった。
  - ・ 職員減少に対応するため、第三者委託を選択した事業体もある。など
- ② 施設の老朽化について
  - ・ 施設が老朽化しているが予算的に厳しく更新、耐震化対策が進んでいない。（共通課題）
  - ・ 施設更新に関する国庫補助メニューの拡大が必要と考えている。
  - ・ 漏水対策が課題となっているが、予算の関係から漏水調査を実施できていない。など
- ③ 経営について
  - ・ 地理的条件などからハード面の広域化（統合）は難しい。（共通課題）
  - ・ 民間事業者の力を借りて維持管理を行いたいが予算の関係で進んでいない。（共通課題）
  - ・ 水道料金の改定に踏み切れていない。水道料金改定作業が滞っている。
  - ・ 市町村合併や職員減少のため、広域化・官民連携の考え方から民間委託を導入している事例があるほか、近隣事業体との連携、広域化により効率性を求めたいとの考えを持っている。など
- ④ 緊急時対応について
  - ・ 降雨時の濁水対策が課題となっている。
  - ・ 緊急時のマニュアルを誰にでもわかるものとする必要性が生じている。
  - ・ 過去の災害を経験した職員が退職したため、実践に即した災害対応が課題となっている。など

## **(2) 民間事業者からの提案内容**

### **① 人口減少、水需要・料金収入の減少、職員減少、技術継承、経営に対して**

- ・ 民間事業者との連携や民間事業者のノウハウの活用は必要不可欠となってきているが、民間事業者としての採算性の問題は存在する。  
→ 小さな単位のまま委託を考えるのではなく水道事業体間で連携してスケールメリットを生かすこと、委託事業の範囲（内容）を大きくすること、委託期間を長くすることも一つの案である。
- ・ ハードの広域化は難しくとも、維持管理の広域化、人や技術に関するソフト面での連携は進めていくべきであり、現場を知っている職員がいるうちに検討を進めるべき。
- ・ 民間委託はコストダウンと見られがちであるが、例えば上下水道の維持管理を1人や2人で行っている所では、民間に委託してもコストが上がることもある。このため、民間事業者との連携は、水道事業体の体力があるうちに検討を進めておく必要がある。
- ・ 第三者委託を考えている水道事業体においては、従来型の業務委託から進めてお互いに意思疎通を図りながら第三者委託へと進めていくことも1つの案である。
- ・ 広域化はいきなり大きくはできないので、小さな規模から始めて徐々に大きくしていく必要がある。
- ・ 中核的都市による他水道事業体へのサポート機能とそれ支えるフォローシップを検討すべきである。
- ・ 水道が拡張していた時代は仕事をしながら人材が育成されたため技術が文書化されておらず、維持管理の時代に入り技術の文書化、データ化が必要となっている。IT を駆使して情報や知識のマニュアル化、見える化を進めていくことが大切である。
- ・ 自身の事業体がどの様な立場にあるのかをデータにより可視化し、首長へ説明しておくことが必要である。民間委託に関する勉強会の開催も必要と考える。など

### **② 施設の老朽化に対して**

- ・ アセットマネジメントを行い、自身の事業体の状況を知り、首長にも説明しておく必要がある。
- ・ アセットマネジメントの支援も行っているので活用していただきたい。
- ・ 漏水調査の実施方法、データ化について説明があり、管路に関する情報をデータ化、GIS化して維持管理していくことが必要である。
- ・ ダウンサイジングが可能であれば、管路を掘り返さなくとも既存管の中に新しい管を入れる方法もある。

### **③ 緊急時対応に対して**

- ・ 災害時や山間部における可搬式ろ過機、水中ロボットによる配水施設清掃、緊急時に地下水を活用するための井戸の設置についての提案。

## **3 アンケートに寄せられた意見の概要**

### **(1) 水道事業体からの感想・意見**

- ・ 地域別会議について、「各事業体の課題を聞いて良かった。」、「民間事業者の考え方を聞いて良かった。」、「今後とも地域別会議は継続してもらいたい。」の意見が多数寄せられた。
- ・ 民間事業者の力を借りたいとの意識が強い地域、面積が広く広域化が難しいと考えている地域、テーマ（課題）ごとに議論を深めていきたいと考えている地域に分かれていた。

(2) 民間事業者からの感想・意見

- ・ 地域別会議について、「水道事業体の課題を聞いて良かった。」、「民間事業者の取り組みを紹介できた。」との意見が多数寄せられた。

(3) 今後の地域別会議に関する意見

① 水道事業体、民間事業者等から

- ・ 「テーマを絞って少人数単位で対応策をより具体的に検討しては如何か。」「維持管理の共同化（広域化）から検討を始めてはどうか。」の意見が多かった。

② 水道事業体から

- ・ 「第三者委託等の先進事例を紹介してもらいたい。」、「中小規模の水道事業体に対する委託スタイルの提案をいただきたい。」、「圏域単位での意見交換も必要。」、「事業体の規模・課題ごとに議論を深めてはどうか。」、「料金設定・滞納整理・漏水調査等をより詳しく知りたい。」など

③ 民間事業者等から

- ・ 「予め民間事業者から提案書を提出してそれをもとに議論しては如何か。」、「大都市、基盤都市の役割を整理しては如何か。」など

**4 今後の地域別会議について**

25年度の地域別会議で出された課題に対しては、26年度以降の地域別会議で民間事業者等と連携して、解決に向けた対応策の議論を深める考えである。

**【参考：平成25年度 地域別会議の開催状況】**

開催日	開催地	地域名	圏域名	水道事業体		民間事業者等(延数)		意見交換 グループ数 (グループ)
				事業体数 (事業体)	参加人数 (人)	事業者数 (社)	参加人数 (人)	
H25.11.21	釧路市	釧路・根室地域	釧路・根室圏域	13	19	16	31	1
H25.12.16	網走市	オホーツク地域	オホーツク圏域	14	18	13	26	2
H25.12.19	旭川市	道北地域	上川圏域	14	16	15	30	2
			留萌圏域	4	4			
			宗谷圏域	3	3			
H26. 1.20	札幌市	道央地域	空知・石狩圏域	22	31	26	50	2
H26. 1.21	札幌市		後志圏域	8	9	22	44	2
			胆振圏域	6	7			
			日高圏域	5	5			
H26. 1.23	函館市	道南地域	渡島・檜山圏域	17	18	18	31	1
H26. 1.30	帯広市	十勝地域	十勝圏域	18	26	16	31	1
合計(7回)		6地域	11圏域	124	156	126	243	11



道央地域（石狩圏域）での意見交換の様子（H26. 1.20）



道央地域（空知圏域）での意見交換の様子（H26. 1.20）